

政策医療ネットワークに期待する

国立精神・神経センター国府台病院
湯 浅 龍 彦

21世紀が始まって3カ月がたち、いつもより早い桜の満開宣言に異例の雪ふぶきが舞い、現実の厳しさとかさね合わせてしまう今日このごろである。さて、医療の現場はといえば、これまた世情と同じで、そこそこにシステムのほころびが露呈してきている。そんな中、今年の総合医療学会はミレニアムという歴史の区切りから、その内容において明らかにひとつの時代を画す特別の意義を有すものであった。それは政策医療ネットワークシンポジウムがメインプログラムに取り上げられたことである。これにより今後の国立病院（ここでは国立病院、療養所、ナショナルセンターを含める）の旗幟が鮮明にされた。

取り扱う疾患や盛り込むべき内容は各ネットワーク毎に異なるであろうが、共通する4つの基本路線として、診療の向上、臨床研究の推進、研修教育の実施、情報発信が確認された。これらはエージェンシー化が定められた国立病院の一つの集合体として繋ぎ、さらに次代を期して医療の質の向上を目指すものである。しかし現時点では始まったばかりの未発達システムであり、今後実効的に機能するシステムとして強化育成しなければならない。国立病院を取り巻く医療の現実には容易ならざるものがあり、経営改善とともに質の向上を目指して患者サービス、情報開示、事故防止、クリティカルパスなどが盛んに語られる所以である。

ところで我が国の国立病院政策医療ネットワークは、

実は世界的にも他に類をみない意義深い医療集合体なのである。その特徴は、設立母体が国であること、そのために一定のレベル以上の専門的医療スタッフと設備を擁していること、そして、今後ナショナルセンターを中心に階層的な縦のネットワークを形成しながら、一方で我が国を北から南までの横断的流れを形成していくことである。

その中で、政策医療ネットワークは医療スタッフの育成に対しても一定の役割を果たさなければならないと考える。例えば臨床医の養成を例にとれば、多くの国立大学医学部は、今やいづこも大学院大学化による機構改革を目指している。このような傾向は、世界に伍してゆける科学者を育てるという目的には沿うであろうが、しかし実際の医療現場の視点からいうと、良い臨床医を育てることも今日益々もって緊急かつ重要な問題である。科学と医療のバランスが極めて大切である。我々の医療現場からすれば、卒業教育の一環に政策医療を取り入れるという観点を広く理解して頂き、卒後研修のカリキュラムに政策医療を反映して行く考え方が重要と考える。

卒後教育をこの医療ネットワークに乗せて実施するならば、その効用は多方面に於いて大と言えよう。多数の若い医師がこの政策医療ネットワークに集い、このネットワーク上で日本各地をローテーションしながら臨床の研鑽をする。政策医療ネットワークが情報発信のみならず、人材育成の場としてダイナミックで真に活力ある医療集団に発展することを夢見るのは小生ばかりではあるまい。

そして、本誌「医療」の役割も医療ネットワークの情報誌として、おのずから定まってくるであろう。